



SECカーボン

# 2026年3月期 決算説明資料

2026年5月14日

東証スタンダード **5304**

**SECカーボン株式会社**

## 目次

01. 2026/3期 決算概要	p.2
02. 2027/3期 決算見通し	p.13
03. APPENDIX	p.22

# 2026/3期 決算概要

01.

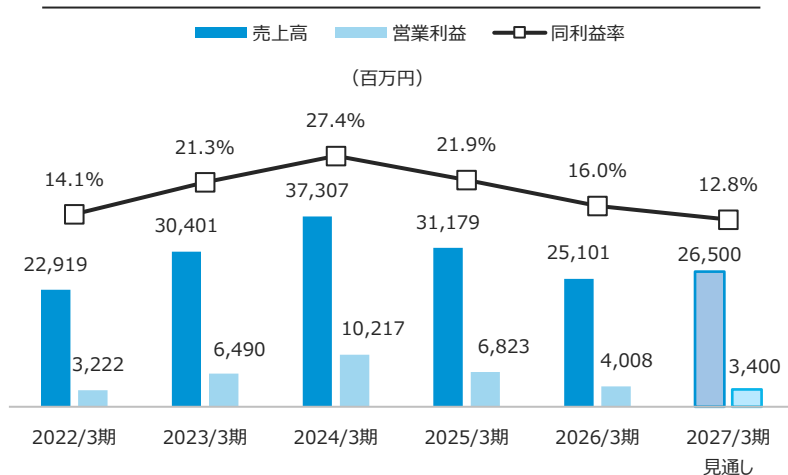
## ■2026/3期：取引先の在庫調整により減収減益、減損損失により最終赤字

- アルミ製錬用カソードブロックの在庫調整影響により、前期比減収減益。  
また、設備の減損損失（60億円）を特別損失に計上し、最終損益は赤字（▲74百万円）に
- 但し、期前半よりカソードブロックの取引先在庫調整は解消方向に転換。四半期売上高は2Qより回復傾向

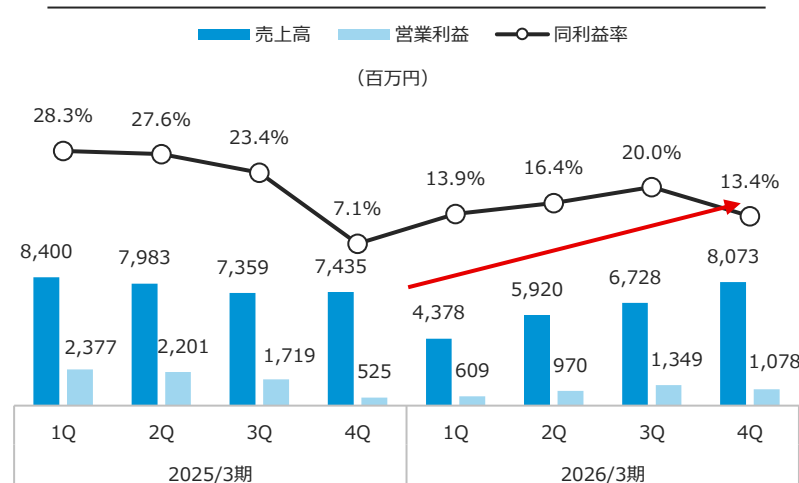
## ■2027/3期：増収減益の見通し

- 在庫調整解消を見込むも、価格下落・コストアップを想定し増収減益見込み。  
プラス・マイナス両面の影響が想定される中東情勢については、現時点で織り込まず
- 中長期経営方針を策定。ROE12%目標の実現に向けて舵を切る

### 年度ベース業績推移



### 四半期ベース業績推移



## 2026/3期決算概要

- 2026/3期は、**前期比減収減益**。ほぼ横ばいの売上を確保した人造黒鉛電極を除き、前期比2ケタ減収。大幅減収に伴い、営業利益も4割減
- 事業環境の悪化に伴い、特別損失に設備の減損損失を計上。親会社株主に帰属する当期純損益は、2017/3期以来となる赤字に
- 業績予想との比較では、売上が若干の未達となったものの、営業利益はほぼ想定通り

百万円	2025/3期	2026/3期		予想比 差異	前期比	
		業績予想 (2025/11/13)	実績		増減額	増減率
<b>売上高</b>	31,179	26,600	<b>25,101</b>	<b>▲1,498</b>	<b>▲6,078</b>	<b>▲19.5%</b>
アルミニウム製錬用カソードブロック	22,002	17,600	<b>16,949</b>	<b>▲650</b>	<b>▲5,053</b>	<b>▲23.0%</b>
人造黒鉛電極	4,524	4,800	<b>4,482</b>	<b>▲317</b>	<b>▲42</b>	<b>▲0.9%</b>
特殊炭素製品	3,653	3,500	<b>2,896</b>	<b>▲603</b>	<b>▲757</b>	<b>▲20.7%</b>
ファインパウダー及びその他炭素製品	998	700	<b>772</b>	<b>+72</b>	<b>▲225</b>	<b>▲22.6%</b>
<b>営業利益</b>	6,823	4,100	<b>4,008</b>	<b>▲91</b>	<b>▲2,815</b>	<b>▲41.3%</b>
<b>営業利益率</b>	21.9%	15.4%	<b>16.0%</b>	<b>+0.6pt</b>	<b>▲5.9pt</b>	<b>-</b>
<b>EBITDA*</b>	8,127	6,040	<b>6,056</b>	<b>+16</b>	<b>▲2,070</b>	<b>▲25.5%</b>
EBITDAマージン	26.1%	22.7%	<b>24.1%</b>	<b>+1.4pt</b>	<b>▲2.0pt</b>	<b>-</b>
<b>経常利益</b>	7,716	5,300	<b>5,683</b>	<b>+383</b>	<b>▲2,033</b>	<b>▲26.3%</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	5,750	3,600	<b>▲74</b>	<b>▲3,674</b>	<b>▲5,825</b>	<b>-</b>
輸出比率	76.6%	72.9%	<b>73.1%</b>	<b>+0.2pt</b>	<b>▲3.5pt</b>	<b>-</b>
期中為替レート (円/USD)	152.76	145.40	<b>151.64</b>	<b>+6.24</b>	<b>▲1.12</b>	<b>▲0.7%</b>

\*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

2026/3期

減損損失**60**億円を計上

## 減損対象設備

人造黒鉛電極製造装置

## 減損の背景

投資判断の前提となる事業環境から大きく悪化

- ①粗鋼生産量の低迷継続に伴う**需要後退**
- ②中国・インド企業による**供給過剰下での販売攻勢激化**

## 今後の方針

人造黒鉛電極は、**成長が見込まれる**  
**太物電極へ経営資源を重点配分**

- 4Q単独では、前期比増収増益。四半期ベースで前期比増収となるのは7四半期ぶり。業績悪化局面には一旦歯止め

百万円	2025/3期				2026/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
<b>売上高</b>	8,400	7,983	7,359	7,435	4,378	5,920	6,728	<b>8,073</b>
アルミニウム製錬用カソードブロック	6,273	5,833	5,306	4,588	2,485	4,162	4,819	<b>5,481</b>
人造黒鉛電極	1,016	1,087	931	1,488	1,010	1,006	1,135	<b>1,330</b>
特殊炭素製品	828	818	863	1,142	691	577	586	<b>1,040</b>
ファインパウダー及びその他炭素製品	281	244	257	215	190	173	187	<b>220</b>
<b>営業利益</b>	2,377	2,201	1,719	525*	609	970	1,349	<b>1,078</b>
営業利益率	28.3%	27.6%	23.4%	7.1%	13.9%	16.4%	20.0%	<b>13.4%</b>
<b>EBITDA</b>	2,684	2,516	2,058	866	891	1,296	2,051	<b>1,817</b>
EBITDAマージン	32.0%	31.5%	28.0%	11.6%	20.4%	21.9%	30.5%	<b>22.5%</b>
<b>経常利益</b>	3,125	1,693	2,472	424	948	1,335	1,907	<b>1,490</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	2,276	1,285	1,712	475	672	961	1,351	<b>▲3,059</b>
輸出比率	80.4%	77.9%	76.0%	71.7%	61.0%	77.3%	76.6%	<b>73.8%</b>
期中為替レート (円/USD)	156.32	149.83	152.94	151.65	144.07	147.23	154.47	<b>156.44</b>

\*在庫評価損の影響：▲6.35億円

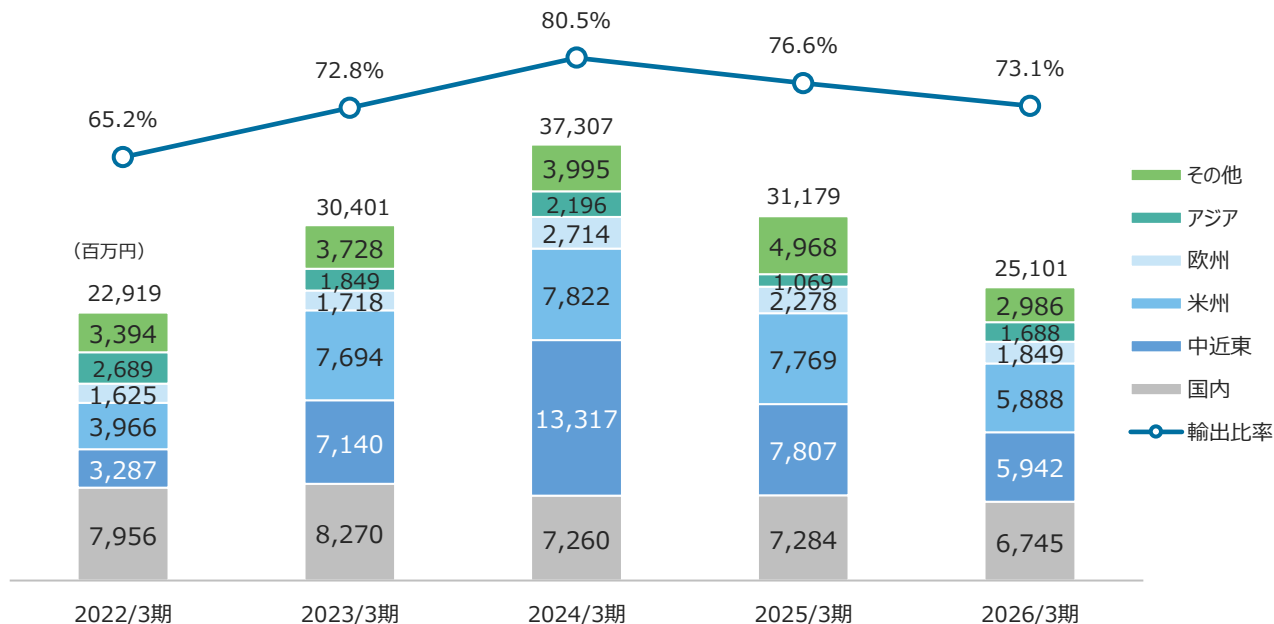
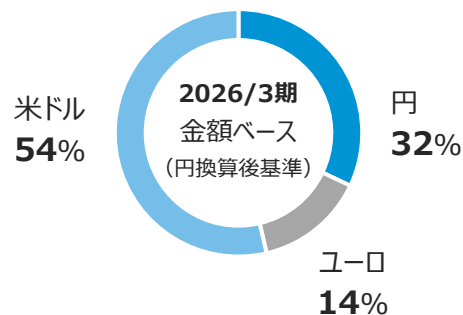
# 地域別売上高



- 2024/3期以降、中近東、米州向けの売上は、アルミ製錬用カソードブロックの在庫調整の影響で、減少傾向が顕著
- 中近東・米州は、引き続きカソードブロック販売における重要地域と位置づける

為替感応度\* 営業利益：約1億円

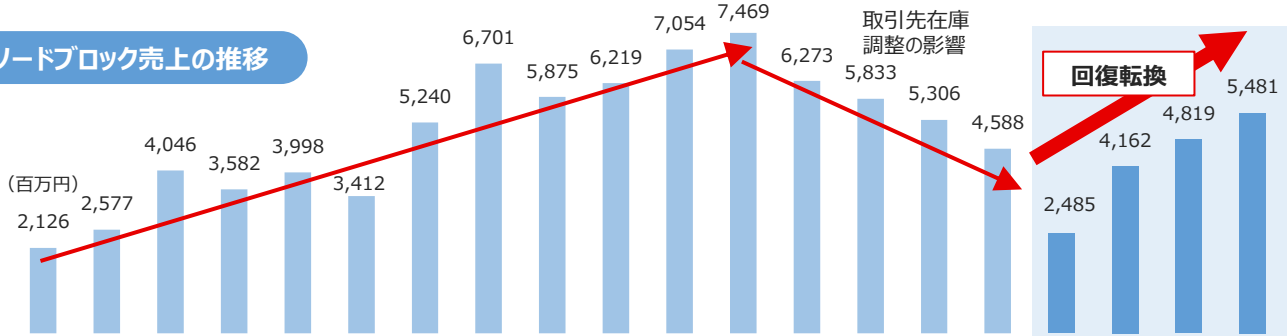
\*1円円安（対USD）時の増益



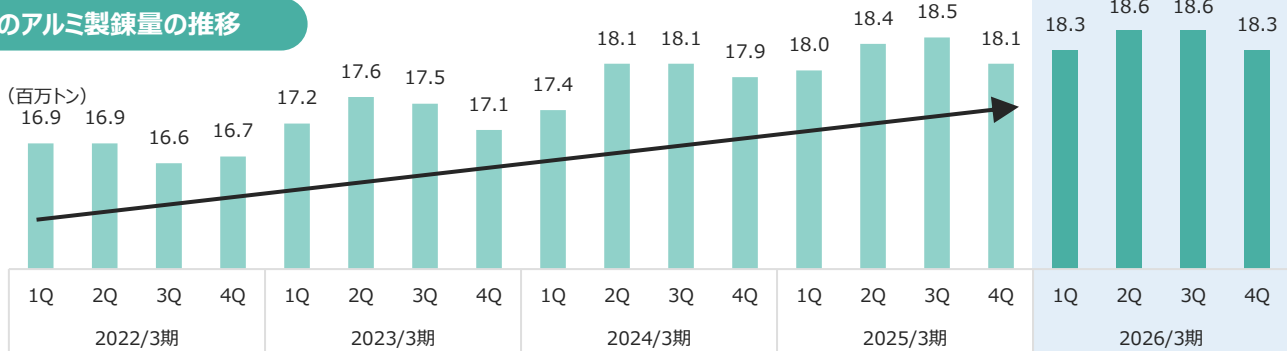
# アルミ製錬用カソードブロックの売上トレンド

- カソードブロック売上は2026/3期1Qをボトムに回復基調に転換。期初想定通りの展開に
- 一方、実需と言えるアルミ製錬量は趨勢的に拡大基調が継続。2025/3期よりカソードブロックは在庫調整を余儀なくされたが、2026/3期は堅調な実需に沿った出荷動向に回帰

当社カソードブロック売上の推移

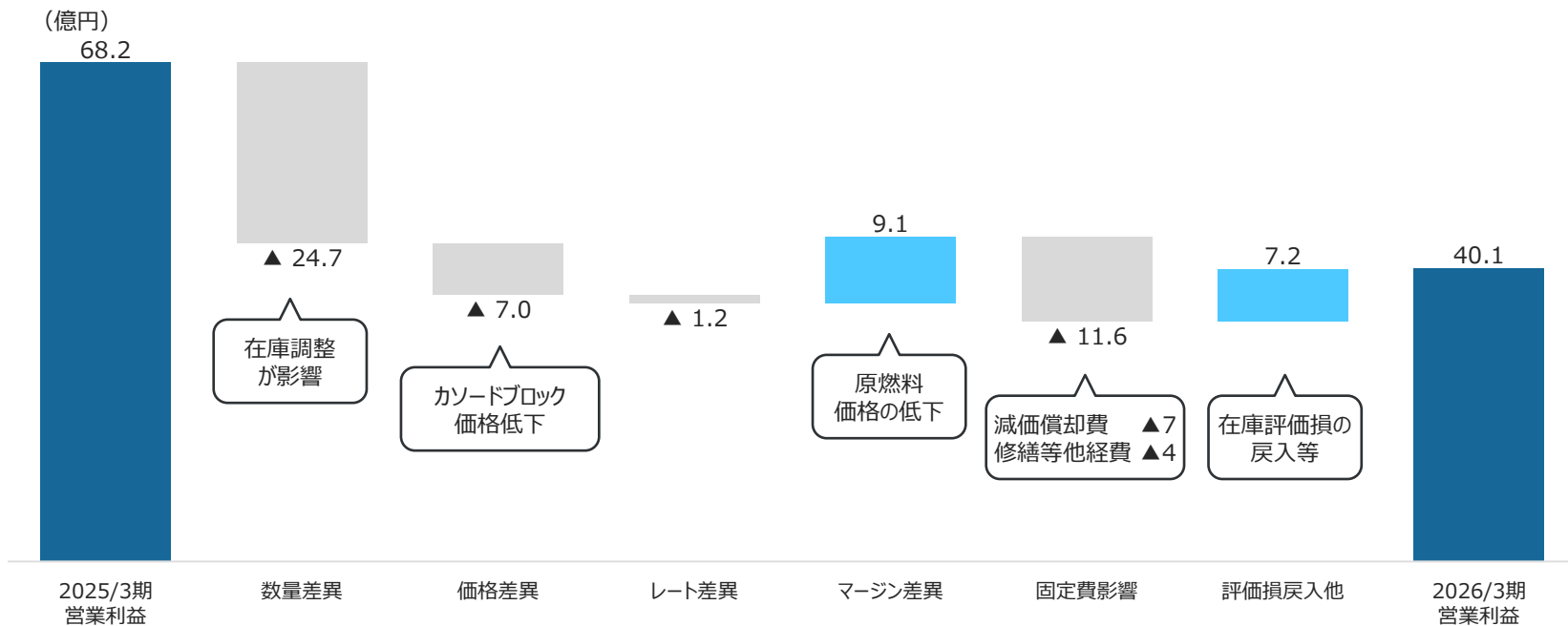


世界のアルミ製錬量の推移



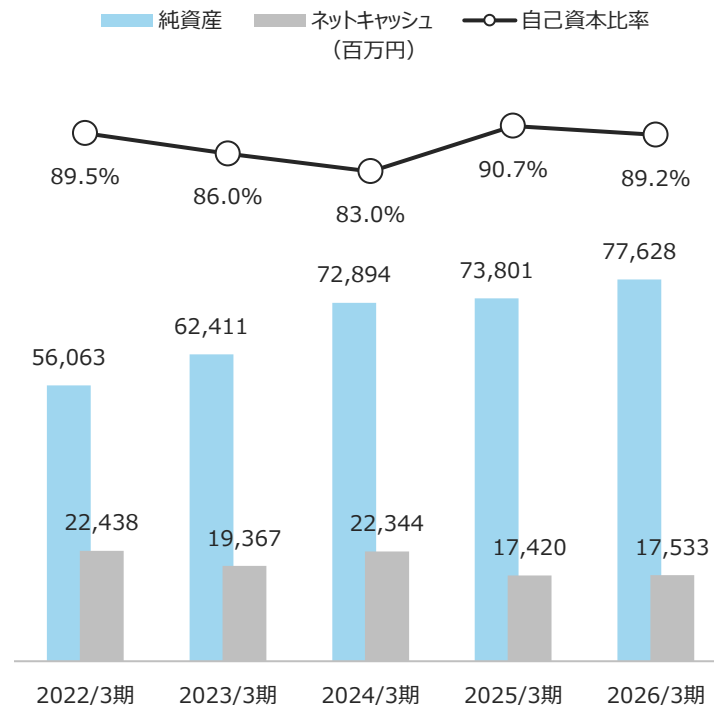
## 2026/3期営業利益 増減益分析

- 前期比28億円営業減益となった主因は販売量の減少。主力のアルミ製錬用カソードブロックで在庫調整による需要停滞が発生
- 加えて、需給緩和に伴って価格も下落。減価償却費などの固定費上昇も損益を圧迫し、マージン差異や評価損戻入益等では吸収できず
- なお、前期・前々期に収益の追い風となった為替レート影響は、2026/3期は若干の円高となり、損益影響はほとんどなし



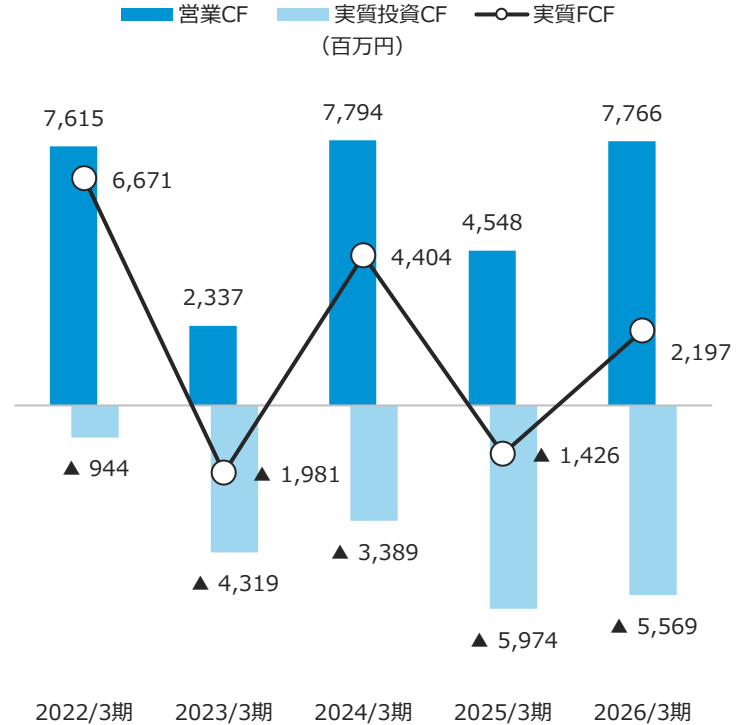
- 総資産は7%拡大。ただし、これはほとんどが有価証券評価の上昇に伴うもの。この特殊要因を除けば、減損の影響もありバランスシートは縮小
- 期末自己資本比率は89%。依然として財務基盤は盤石であり、ネットキャッシュ状態を維持。期末時点では175億円のネットキャッシュを抱える

百万円	2025/3期	2026/3期	増減額
<b>流動資産</b>	<b>45,824</b>	<b>45,663</b>	<b>▲161</b>
現預金	17,420	<b>17,533</b>	+112
受取手形/売掛金	9,266	<b>9,378</b>	+112
棚卸資産	17,853	<b>18,253</b>	+399
<b>固定資産</b>	<b>35,570</b>	<b>41,353</b>	<b>+5,782</b>
有形固定資産	17,623	<b>13,316</b>	<b>▲4,306</b>
投資有価証券	17,724	<b>27,813</b>	+10,089
<b>総資産</b>	<b>81,395</b>	<b>87,016</b>	<b>+5,621</b>
<b>負債</b>	<b>7,593</b>	<b>9,388</b>	<b>+1,794</b>
買掛金	1,586	<b>1,934</b>	+348
未払法人税等	370	<b>863</b>	+492
<b>純資産</b>	<b>73,801</b>	<b>77,628</b>	<b>+3,826</b>
株主資本	64,525	<b>62,446</b>	<b>▲2,079</b>
その他有価証券評価差額金	9,250	<b>14,924</b>	+5,673
<b>負債・純資産合計</b>	<b>81,395</b>	<b>87,016</b>	<b>+5,621</b>



- 2026/3期は、税引前当期純損失だが、減損損失計上や法人税支払減少等により営業CFは拡大
- 一方、投資CFは、日本電極（持分法適用）株式取得や定期預金向けにキャッシュアウト増加。定期預金の影響除く実質FCFは21億円の黒字を確保

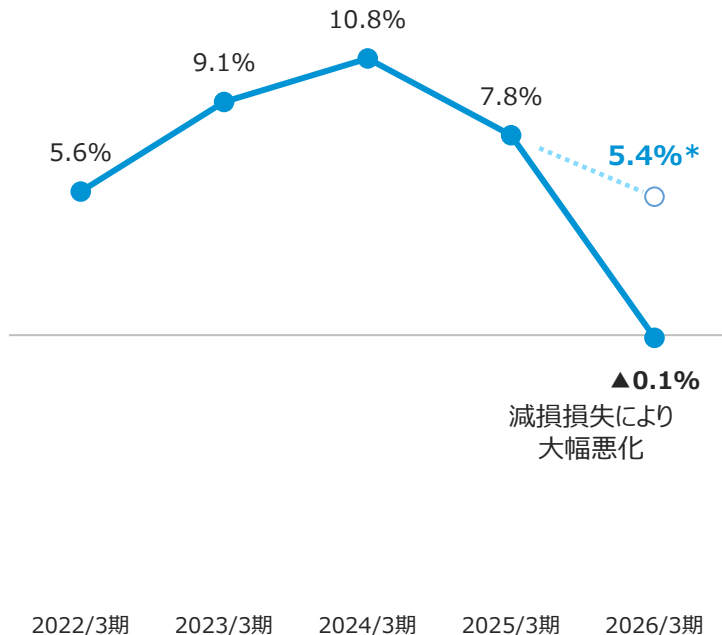
百万円	2025/3期	2026/3期	増減額
<b>営業CF</b>	4,548	<b>7,766</b>	+3,218
税前当期純利益	8,170	<b>▲423</b>	▲8,593
減価償却費	1,304	<b>2,048</b>	+744
減損損失	-	<b>6,063</b>	+6,063
運転資本増減	2,486	<b>▲163</b>	▲2,649
未払・未収消費税増減	▲1,644	<b>583</b>	+2,228
法人税支払	▲4,142	<b>▲1,073</b>	+3,069
<b>投資CF</b>	▲5,404	<b>▲7,139</b>	▲1,734
定期預金増減	570	<b>▲1,570</b>	▲2,140
<b>実質投資CF*</b>	▲5,974	<b>▲5,569</b>	▲405
有形固定資産取得	▲6,549	<b>▲3,567</b>	+2,981
投資有価証券取得・売却	595	<b>▲1,782</b>	▲2,377
<b>実質FCF**</b>	▲1,426	<b>2,197</b>	+3,623
<b>財務CF</b>	▲2,989	<b>▲2,011</b>	+977
配当金支払	▲2,342	<b>▲2,004</b>	+338
現金同等物期中増減	▲4,353	<b>▲1,457</b>	+2,896
実質現金同等物期中増減*	▲4,923	<b>112</b>	+5,036



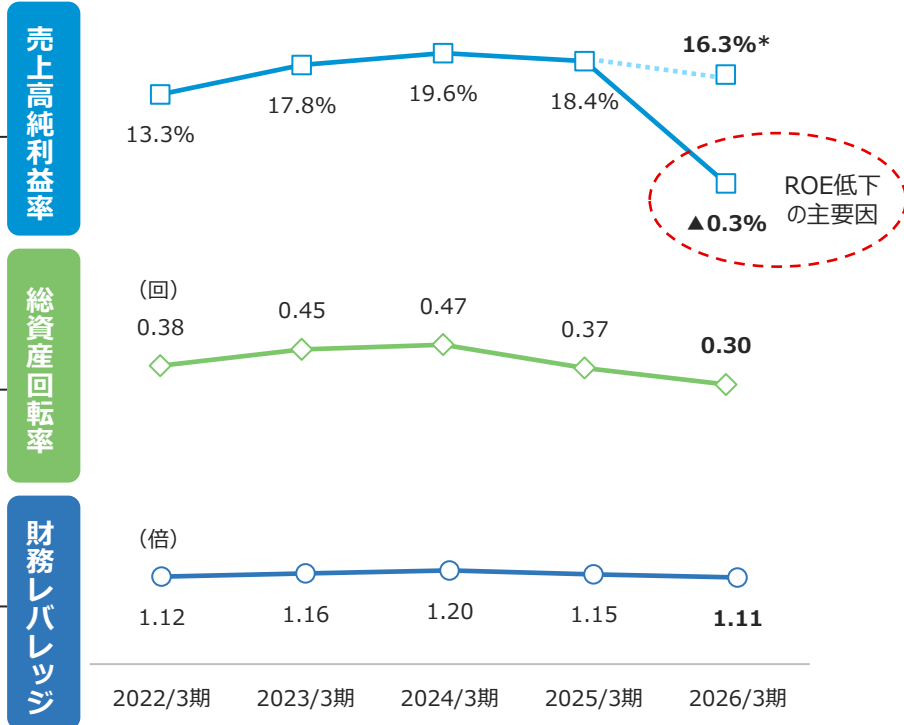
\*実質：定期預金増減を除く  
 \*\*実質FCF = 営業CF + 投資CF (定期預金増減を除く)

# ROE推移

- ROEは減損損失の計上に伴う利益率低下により大幅に低下
- 総資産回転率も低下傾向にあり、ROEの押下げ要因として影響



\*減損損失（特別損失）を除いた調整後ベース



# 2027/3期 決算見通し

02.

- 中東情勢は、アルミ製錬用カソードブロック需要の押し上げ要因となる一方、燃料・電力・原料・物流コストの上昇や供給制約要因となる可能性あり
- 現時点では定量的な影響見通しは困難であり、業績予想にはこれらの影響を織り込まない前提で算定

マイナス  
要因

コスト、供給

## コスト

- 石油製品の供給の逼迫を起点に、燃料・電力・原料・資材・物流コストが上昇する可能性

## 供給

- 石油製品の供給逼迫が継続する場合、工場操業上の制約となる可能性
- 海上輸送の混乱等によるサプライチェーンの不確実性

プラス  
要因

需要（カソードブロック）

- 地政学リスクの台頭による顧客の部材確保加速、さらにそれに伴う在庫積み増しや、生産再開需要増加の可能性
- 中東地域におけるアルミ製錬事業の先行不透明感台頭が他地域でのアルミ生産増加を促進する可能性
- コスト上昇局面において、販売価格是正・転嫁の交渉余地が拡大する可能性

\*留意点  
顧客操業継続性、他地域への需要シフト、価格転嫁の実現度はいずれも不透明

- 増収減益の見通し。売上面では、人造黒鉛電極は、国内顧客向けや太物電極拡販を前提に増収見込む
- 主力のアルミ製錬用カソードブロックは微増収。在庫調整解消進展に伴う数量増を見込むも、需給緩和期の改定価格の影響が下押し要因に
- 利益面ではカソードブロックの価格低下等が影響し、営業減益見込む  
一方、2026/3期の減損影響一巡から、親会社株主に帰属する当期純損益は黒字回復

百万円	2026/3期	2027/3期見通し	増減額	増減率
<b>売上高</b>	25,101	<b>26,500</b>	<b>+1,398</b>	<b>+5.6%</b>
アルミニウム製錬用カソードブロック	16,949	<b>17,300</b>	<b>+350</b>	<b>+2.1%</b>
人造黒鉛電極	4,482	<b>5,400</b>	<b>+917</b>	<b>+20.5%</b>
特殊炭素製品	2,896	<b>3,000</b>	<b>+103</b>	<b>+3.6%</b>
ファインパウダー及びその他炭素製品	772	<b>800</b>	<b>+27</b>	<b>+3.5%</b>
<b>営業利益</b>	4,008	<b>3,400</b>	<b>▲608</b>	<b>▲15.2%</b>
<b>営業利益率</b>	16.0%	<b>12.8%</b>	<b>▲3.2pt</b>	—
<b>EBITDA*</b>	6,056	<b>5,550</b>	<b>▲506</b>	<b>▲8.4%</b>
EBITDAマージン	24.1%	<b>20.9%</b>	<b>▲3.2pt</b>	—
<b>経常利益</b>	5,683	<b>4,400</b>	<b>▲1,283</b>	<b>▲22.6%</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>▲74</b>	<b>3,000</b>	<b>+3,074</b>	—
輸出比率	73.1%	<b>71.5%</b>	<b>▲1.6pt</b>	—
期中為替レート (円/USD)	151.64	<b>155.00</b>	<b>+3.36</b>	<b>+2.2%</b>

\*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

# 2027/3期決算見通し(半期別)



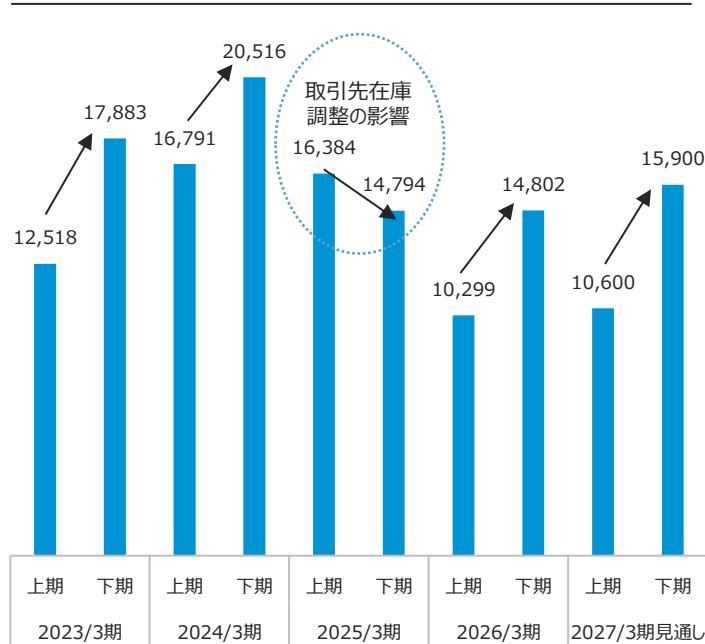
- 2027/3期見通しを半期別に見ると、アルミ製錬用カソードブロックの出荷タイミングの偏りにより、下期偏重を見込む
- 上期は2026/3期下期比で減収減益を想定。カソードブロックは出荷タイミングの影響により上期は低水準となり、価格低下もあり減益
- 在庫調整解消の進展効果は下期中心に発現を見込む

百万円	2026/3期実績		2027/3期見通し	
	上期	下期	上期	下期
<b>売上高</b>	10,299	14,802	<b>10,600</b>	<b>15,900</b>
アルミニウム製錬用カソードブロック	6,648	10,301	<b>6,400</b>	<b>10,900</b>
人造黒鉛電極	2,017	2,466	<b>2,500</b>	<b>2,900</b>
特殊炭素製品	1,269	1,627	<b>1,300</b>	<b>1,700</b>
ファインパウダー及びその他炭素製品	364	409	<b>400</b>	<b>400</b>
<b>営業利益</b>	1,580	2,428	<b>1,100</b>	<b>2,300</b>
<b>営業利益率</b>	15.3%	16.4%	<b>10.4%</b>	<b>14.5%</b>
<b>EBITDA*</b>	2,187	3,869	<b>2,200</b>	<b>3,350</b>
EBITDAマージン	21.2%	26.1%	<b>20.8%</b>	<b>21.1%</b>
<b>経常利益</b>	2,284	3,399	<b>1,600</b>	<b>2,800</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	1,634	▲1,708	<b>1,300</b>	<b>1,700</b>
輸出比率	70.4%	75.1%	<b>66.2%</b>	<b>75.0%</b>
期中為替レート (円/USD)	146.05	155.52	<b>155.00</b>	<b>155.00</b>

\*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

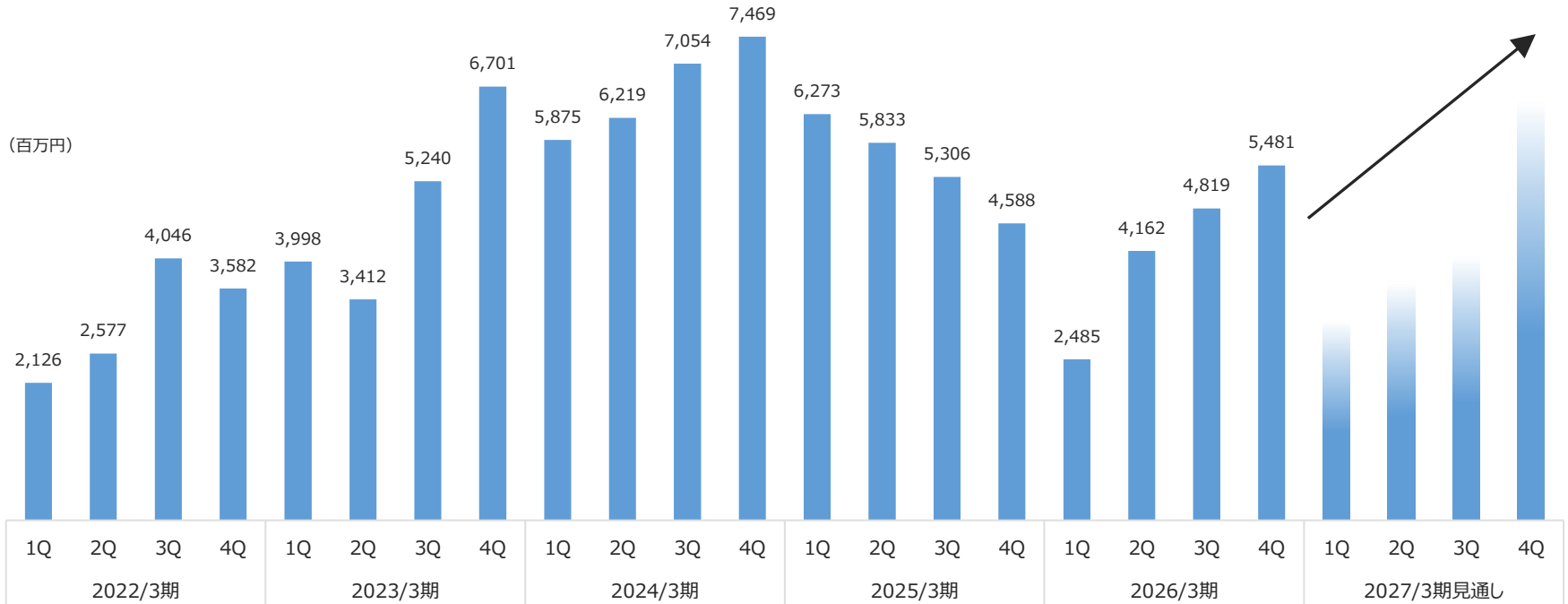
## 半期ベース売上高推移・見通し

(百万円)



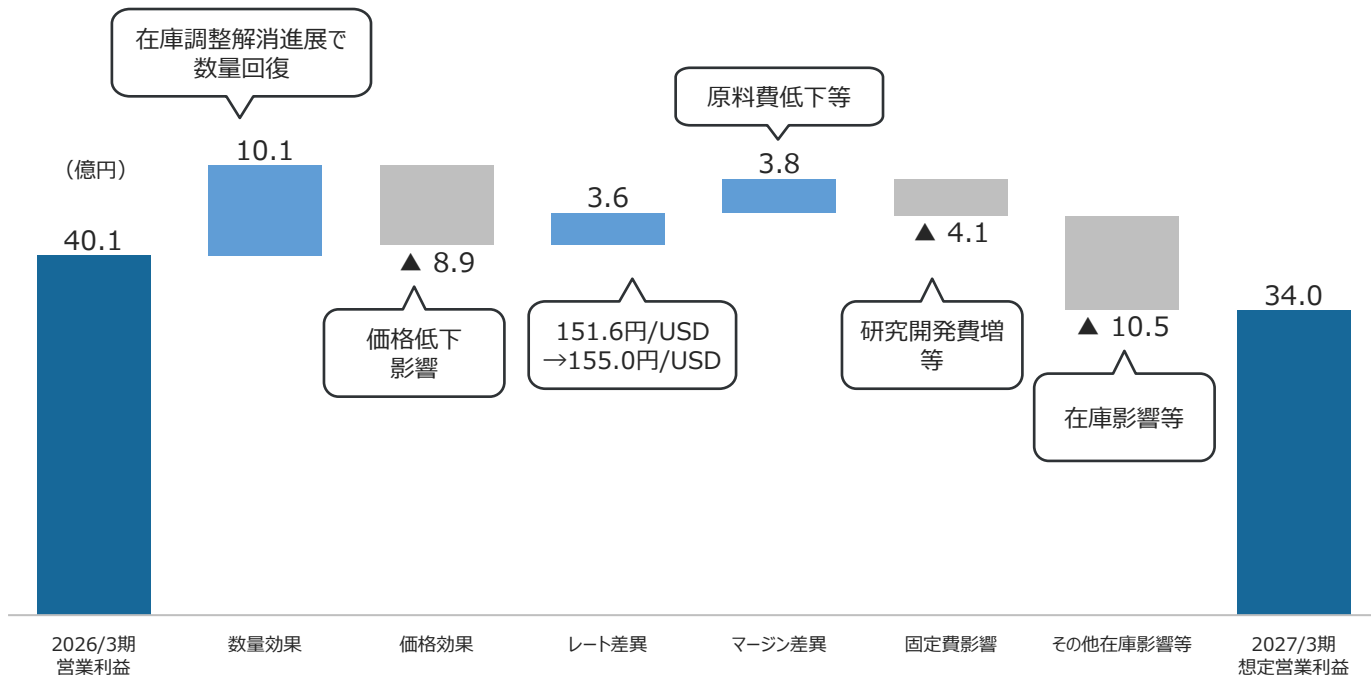
# アルミ製錬用カソードブロック売上見通し

- カソードブロック売上は、1Qが2027/3期のボトムとなる見込み。カソードブロックに季節性はなく、出荷タイミングの影響による。その後は四半期を追って回復を見込む
- カソードブロックの価格は多くが年間契約となっており、2026年価格は在庫調整局面での価格改定により売り手には厳しい水準

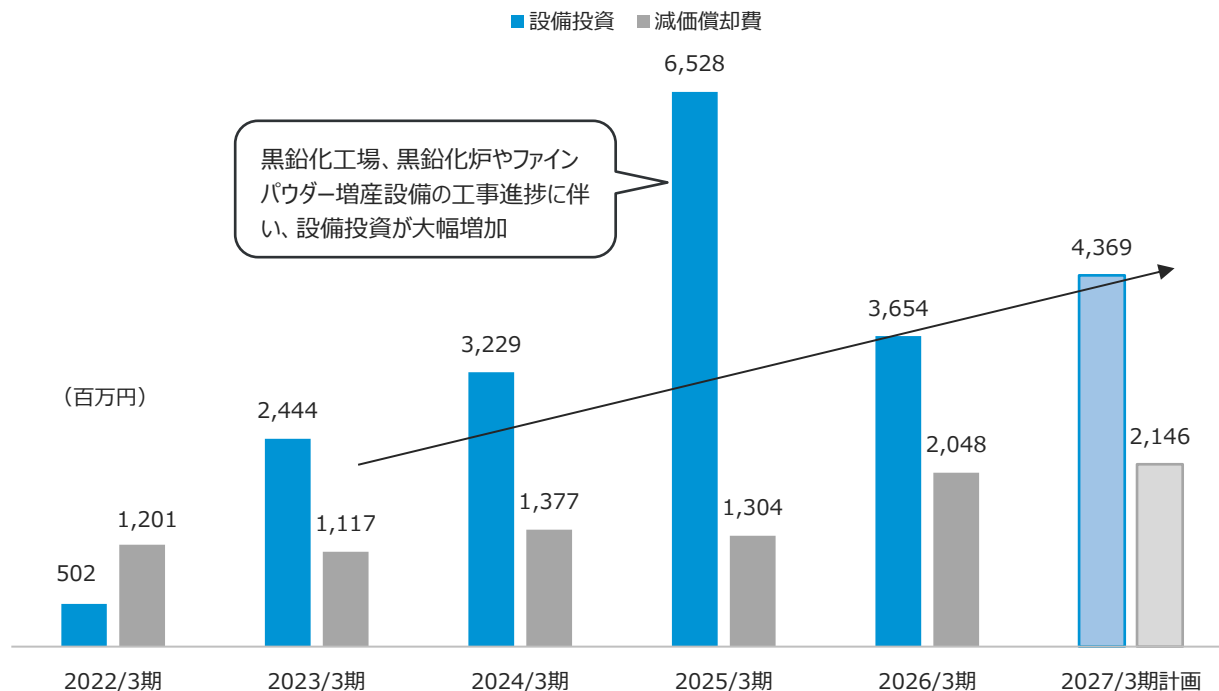


# 2027/3期営業利益見通し 想定増減益分析

- 減益を想定する主因は価格低下と在庫影響。研究開発費増も減益要因だが、将来の成長に向けた先行投資の位置づけ
- 上記マイナス要因に対し、販売数量増加、円安、マージン改善などがプラス要因として寄与
- なお、現時点で中東情勢の影響は織り込んでいないことに留意

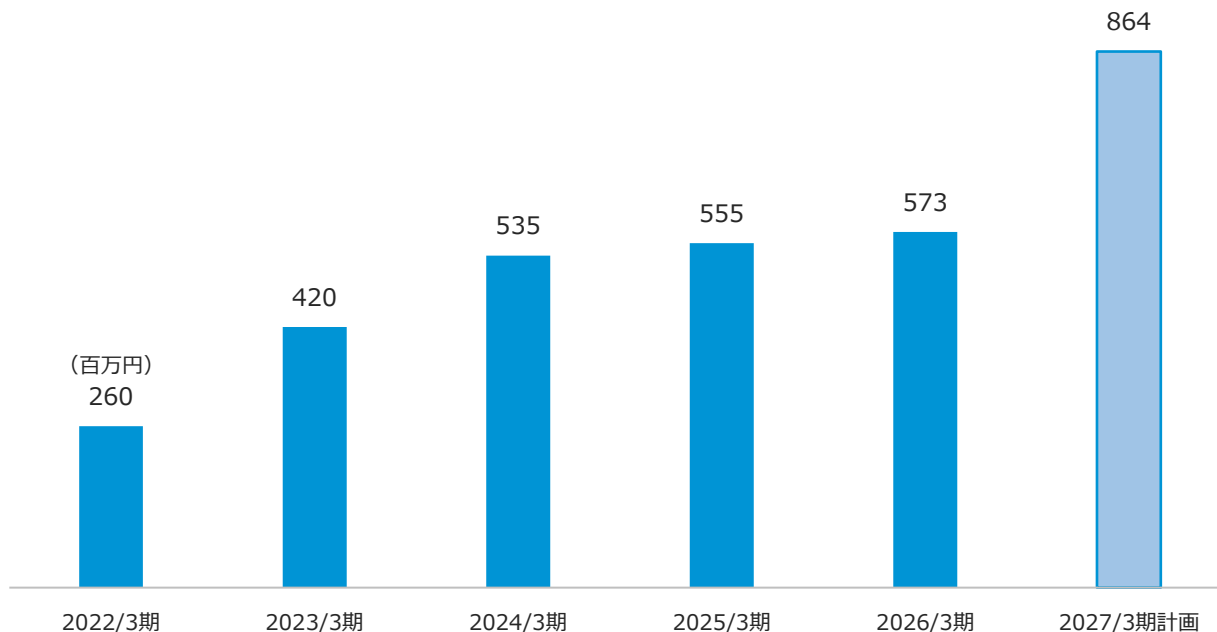


- 2025/3期の投資集中局面を除き、設備投資額は漸増傾向で推移
- 減価償却費も漸増の見通し。2026/3期に設備の減損を計上した一方、その他設備投資の進捗により、27/3期の減価償却費は前期比で概ね横ばいを見込む



- カーボンニュートラルに貢献する新製品開発を加速
- 2027/3期は、前期からの持ち越し分も含め、CO<sub>2</sub>資源化技術等のテーマを中心に大幅増加計画

## カーボンニュートラルに貢献する新製品開発を加速



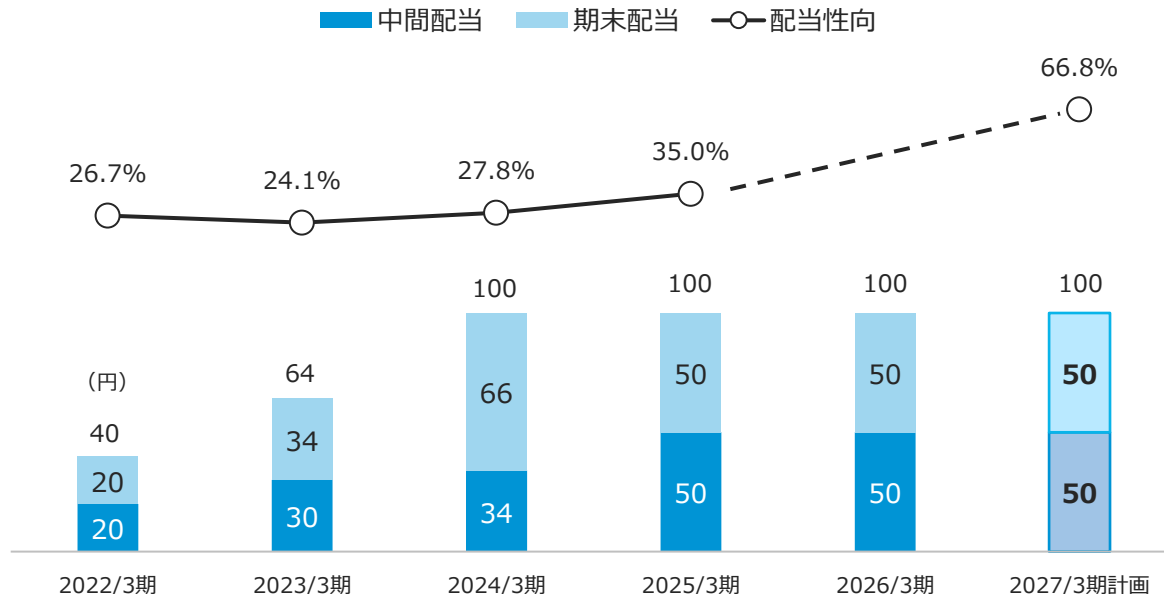
- 2026/3期は、最終赤字となったものの、年間100円配当とし、前期比据置きを決定。盤石な財務基盤に鑑み、株主還元維持を優先
- 2027/3期は、4月に開示した中長期経営方針で設定した配当方針に基づき、通期100円配当維持を計画。安定配当継続を重視

## 配当方針

収益性の向上と財務の健全性を図りつつ、  
**通期100円配当、または連結配当性向30%  
のいずれか高い方を目安に安定的に実施**

## 自己株式取得方針

業績の動向、資本の状況、市場環境等を  
考慮の上、機動的に実施



(注) 1株当たり配当金：2024年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施。  
比較のために、2021/3期期首に株式分割を行ったと仮定して記載

# APPENDIX

03.

項目	単位	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
設備投資	百万円	502	2,444	3,229	6,528	3,654
減価償却費	百万円	1,201	1,117	1,377	1,304	2,048
研究開発費	百万円	260	420	535	555	573
金融収支	百万円	262	526	725	960	977
売上高	百万円	22,919	30,401	37,307	31,179	25,101
海外売上比率	%	65.2	72.8	80.5	76.6	73.1%
期中為替レート	円/USD	112.89	134.84	145.34	152.76	151.64
営業利益	百万円	3,222	6,490	10,217	6,823	4,008
EBITDA	百万円	4,423	7,607	11,595	8,127	6,056
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	3,039	5,402	7,299	5,750	▲74
ROE	%	5.6	9.1	10.8	7.8	▲0.1
営業CF	百万円	7,615	2,337	7,794	4,548	7,766
実質投資CF	百万円	▲944	▲4,319	▲3,389	▲5,974	▲5,569
実質FCF	百万円	6,671	▲1,981	4,404	▲1,426	2,197
財務CF	百万円	▲826	▲1,027	▲1,393	▲2,989	▲2,011
現金及び現金同等物	百万円	22,188	19,087	9,424	5,070	3,613
1株当たり年間配当金	円/株	40	64	100	100	100
配当性向	%	26.7	24.1	27.8	35.0	-

(注) 1株当たり配当金：2024年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施。比較のために、2021/3期期首に株式分割を行ったと仮定して記載

## ご留意点

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

お問い合わせ先

SECカーボン株式会社 総務広報部

06-6491-8600（代表）

<https://sec-carbon.com/contact/>